

【終了報告書】

研修先大学/ 活動先機関名	ヨーク大学	参加 プログラム名	ヨークプログラム	国名	イギリス
氏名		学籍番号		学科	英語英文学科
参加時の 学年	4年	参加費用 (日本円での概算)			
参加日程	2023年 6月 30日 ~ 2023年 7月 23日 (3 週間)			記入年月日	2023年 7月 24日

① 参加前について

研修・活動に参加する目標は何でしたか。

大学の研修を通して4技能の向上を図り言語の壁を最小限にすること、またホームステイや現地での暮らしを通して文化の違いを肌で感じ異文化間の相互理解を深めること、主にこの二つを目指すことで、国際人としての成長を目標とした。英語のみの環境に身を置く経験が初めてだったため、自分が今まで培ってきた語学力やコミュニケーション力を実際に図ることができ、そこから3週間の間で最大限伸ばすことを目指した。また、短い間でできるだけ多くのことを吸収するため、色々な機会を自ら経験しにいく姿勢を維持することも重要だと考えた。そのため、大学側から事前に説明のあった放課後のソーシャルアクティビティに積極的に参加したり、ホストファミリーと過ごせる時間はできるだけ話をするなどということを目指していた。

② プログラムについて

研修・活動の感想

研修ではイギリスの食生活やコミュニケーションの違い、ネイティブ言語の表現や特徴など、幅広くイギリスで暮らす上で重要なことを学んだ。ロールプレイや日本においてはどうかなどの比較を通しより客観的に学ぶことができ、現地で暮らす人の視点にも立てたことで、よりイギリスという国に対する理解を深めることができた。また、文化調査プロジェクトでは、自分達の手で具体的な文化の違いについて焦点を絞って調査を行った。私達は両国間のワークライフバランスの違いについて調べ、どちらの方が現状が良いかについて調査をした。統計を自分達の手で取るために現地の20人の人々に市の中心で声をかけアンケートを行った際には、ヨークの人々、またイギリスの人々がいかに協力的で優しいかを実感した。実際に直接話す機会を得たことで、素晴らしい国民性を肌で体感することもできたと感じている。結果、法などの調査も用いイギリスはより良いワークライフバランスが整っていることがわかり、日本もより体勢を見直すべきだと実感した。

研修・活動以外の部分についての感想

実際に現地でホストファミリーと暮らし、今まで日本で様々なコンテンツを通して学ぶだけでは気づけなかった見えない文化の差異を大いに実感した。それにより、イギリスの文化だけでなく日本の文化の特性についても再確認することができた。例えば、イギリスではしっかりと“Yes”と“No”を言わなければ他者への迷惑になりかねないのに対し、日本でははっきりと意見をいうことを避けることが、相手への礼儀という認識がある。全く対照的であるこの文化の違いにより、共に暮らしたりコミュニケーションをとる際には、互いの文化をはっきりと認識しておくことがとても大切であると実感した。ただ、全ての文化を理解することを前提とすることは不可能である。そのため、異文化間ではお互いに理解できない行動に直面したり失礼だと感じる行動に出会うことは多々ある。その際に、本当に相手に自分が想像しているような意図があったのかを考え直し、文化の違いによる誤解である可能性についても検討することが必要なのだと、ホームステイを通して学んだ。

現地学生との交流について教えてください。 ※交流がなかった場合は、空欄で構いません

メンターとしてソーシャルアクティビティに参加している大学院生とは話す機会があり、3名ほどの学生と交流することができた。彼女達は日本の文化に大いに興味を持ちながら様々な質問を投げかけてくれたため、自分の国を誇らしく思う良い機会になった。また、私達も同様に彼女達の国について知る機会を得ることができ、とても有意義な時間となった。その中で、日本との共通点も多くあることがわかり、中にはとても興味深いものがあった。三人の中にナイジェリア出身の学生がおり、彼女との会話の中で「マグロ」「フジ」はナイジェリア語にもあり、「マグロ」は実際に鮪を使った料理の固有名詞であり、「フジ」はナイジェリアの伝統的な曲であることがわかった。それに合わせた踊りもあり、とても簡単な踊りであるため、その場にいた全員で「フジ」ダンスを踊った。このように、異文化間の思わぬ共通点を見つけることの楽しさを、現地の学生を通して学ぶことができた。

③ 参加の成果について

今回の参加を経て、ご自身の中での学習面・精神面の成果があれば教えてください。

学習面では、プレゼンテーションの際にその成長を実感した。20日に文化調査プロジェクトの集大成としてプレゼンテーションを行った。プレゼンの最中には、流れを止めないようある程度のメモは用意して進めたが、プレゼン後質疑応答をした際に流暢に自分の考えを自分の言葉で述べることができ、スピーキング力、特に脳内における英語での文章の構成速度を上げることができたと感じた。日常会話とは異なりプレゼンという場において、また文化調査という話題において自分の考えを明確にそのまま英語でしっかりと述べることもできたという点で、大きな手応えを感じた。また精神面では、ホストファミリーという今まで全く異なる環境で異なる価値観を身につけてきた人々と生活をしていく中で、いかに文化の違いとともに生活することが精神的に難しいかを学び、またそれらを互いに許容し妥協することの大切さを学んだ。それと同時に、その暮らしを通して例え相手に嫌な行動をされても、それは自分の考え方の方に当てはめて考えてはいけないということも学び、精神的な成長ができたと感じている。

④ その他

その他、気づいたことや今後参加する方へのメッセージがあれば記入してください。

このプログラムでは、イギリスの中でも有数の治安の良い街で安全に文化や生活に触れることができるため、とても貴重な体験をすることができます。「海外は治安が悪くご飯が口に合わないかも」という心配をされている方がいたら、このプログラムではそのような心配はしなくて良いと個人的には思います。様々な体験の機会が用意されており、また自分のしたいこともかなえる時間も同時にあるので、本当に参加して良かったと感じています。何より、他学年他学科の津田塾生達と大いに仲を深めることができるので、他のどの機会よりも長い時間を過ごし最高の思い出と一緒に作るすることができます。語学力を伸ばしたい方はもちろん、新しい自分の側面を発見したい方や津田塾生と親交を深めたい方はぜひ応募してみてください。

『オペラ座の怪人』@ロンドン



ヨーク大聖堂



フィッシュ&チップス@Whitby



Whitbyの景色



Shambles



Farewel party後

